

の有用性について検討した。超音波検査は X 線透過性異物も検出可能で 3 次元的局在診断が可能であり手術侵襲を最小限に抑えられるという面で有用であった。また直視下に異物を発見できない場合、超音波ガイド下に異物を摘出することも可能である。ただし局所の状態や異物の位置によっては False positive および False negative を生ずる場合があり注意を要する。

#### 22. 四肢の外傷後拘縮に対する局所静脈内麻酔下徒手授動療法の有効性

長嶋 久, 渡辺英詩, 荻野 透  
西川晋介, 田原正道 (渡辺病院)

反射性交感神経性ジストロフィーを含む四肢の外傷後拘縮に対して、ステロイド併用局所静脈内麻酔下にマッサージとマニピュレーションを行う治療法を施行し、その有効性について検討した。治療成績の評価は、各種臨床像を点数化 (10点満点) した古瀬等の評価法等に従った。その結果、全体の成績では治療前4.8点から治療後8.0点に改善していた。本法は、非常に有効であると考えられた。

#### 23. 月状骨 (周囲) 脱臼の治療成績

高橋勇次, 山下武広, 今井克己  
六角智之 (千葉市立)

当院において過去8年間で手術療法を行った月状骨 (周囲) 脱臼10例のうち、受傷より手術までの期間が4週以上経過していたものを陳旧例として、治療成績を新鮮例と比較検討した。両群とも強い疼痛を残すものはなかったが、手関節可動域と握力において陳旧例の成績は不良であった。単純 X 線における手根骨間の形態異常と臨床成績との間に一定の傾向はみられず、両群の間にも明らかな差は認めなかった。

#### 24. 後外側回旋性不安定症を呈した肘関節脱臼の 1 症例

藤井康成, 小倉 雅 (鹿児島大)  
奥脇 透 (鹿屋体大保健管理センター)

#### 25. 高度外反変形膝に対し、前外側アプローチを用いて TKA を施行した慢性関節リウマチの 1 例

増田公男, 宮本和壽, 中島 新  
(下志津)  
土田豊実, 阿部一広 (千大)

高度外反変形膝を呈した RA 患者に対し前外側アプローチを用いて TKA を施行した。1991年の Buechel らの方法に準じ、腸脛靭帯、外側側副靭帯を含む関節

外側部の剥離と、腓骨頭の切除および神経剥離により総腓骨神経の除圧を行った後、続いて TKA を施行した。本アプローチは整復後の神経に対する緊張を術中に確認することが可能であり、かつインプラント設置が同一皮切で行える点で有用であった。

#### 26. 前十字靭帯再建術 2 術式の比較

蟹沢 泉 (国際武道)  
守屋秀繁 (千大)  
土屋明弘 (川鉄千葉)

腸脛靭帯ないしは膝屈筋腱による膝前十字靭帯再建術について39例を対象に前向き研究により検討した。Lysholm スコアや、IKDC の最終評価では大きな差を認めず、両術式で満足すべき臨床成績を得たが、細部では若干の相違を認めた。関節可動域は伸展で屈筋腱による再建群が優れた。前後動揺性は腸脛靭帯による再建群の女性が劣ったが、N-テストでは腸脛靭帯による再建群の方が優れた。筋力は両群間で差を認めなかった。

#### 27. 膝、滑膜軟骨腫症の 2 例

長井仁美 (神崎クリニック)  
大鳥精司 (千大)

滑膜軟骨腫は滑膜絨毛に軟骨腫が形成される原因不明の疾患で、軟骨腫は成長し、骨化を生じ遊離体を形成する。本症は稀な疾患とは言えないが、本年、興味ある 2 例を経験したので報告する。1 例めは膝蓋下脂肪体部に発生し、半月板バケツ柄損傷、ペーカー嚢腫を合併していた。半月板、軟骨腫症の鑑別を要し、合併手術を施行した。2 例めは 2.4cm と巨大な軟骨腫を生じた母子例であった。症例の報告と、手術上のポイントを報告する。

#### 28. 鏡視下半月板切除術の短期術後成績

國吉一樹, 西山秀木, 今野 慎  
太田秀幸 (熊谷総合)

#### 29. 成人アテトーゼ型脳性麻痺に合併した歯突起分離を伴う環軸椎不安定症の 1 例

斎藤朋子, 篠原寛休, 藤塚光慶  
矢島敏晴, 丹野隆明, 品田良之  
飯田 哲, 早川 徹 (松戸市立)

34 歳男性アテトーゼ型脳性麻痺における歯突起分離を伴う環軸椎不安定症による頸髄症を報告した。

項部痛、両手のしびれを主訴とし、画像上歯突起分離と前弓肥大が認められ、前後左右に高度の不安定性